

(様式2)

令和2 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102077		
法人名	社会福祉法人 彩のかけはし		
事業所名	グループホームはまべの里(2ユニット共通)		
所在地	新潟市北区島見2190		
自己評価作成日	令和3年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年2月13日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームはまべの里は、新潟市郊外の農村地帯にあり、緑豊かで静かな環境に囲まれています。すぐ近くには島見緑地公園があり、四季折々の花木をご利用者様も楽しんでます。施設は木材使用し、吹き抜けを広く取ってあるのでぬくもりと開放感を感じる建物です。施設内から見渡せる中庭には、様々な種類の樹木と草木が季節を感じさせてくれます。このような環境が施設理念ににも謳っているご利用者に居心地の良い空間を提供し、また職員もその理念に基づき質の高いサービスを提供するため、内部勉強会の実施、外部研修に参加等、各職員がスキルアップに努めています。また、地域の一員であるという理念に基づき、日頃より近所の方々の関わりを心掛け、地域の理髪店にご利用者の散髪に来て頂いたり、保育園と交流を持ったり、法人の納涼祭も地域に開放しています。運営推進会議においても自治会長様、民生委員様、地域包括センター職員様、他施設の方に毎回ご参加頂いている他、ご利用者ご家族にも毎回案内を送り、様々なご意見頂き、施設運営に役立てています。安全面にも、施設内にAEDや発電機設置したり、夜間設定の避難訓練行う等力を入れています。ご利用者様と職員、ご家族との繋がりを大切に考え、ご家族との面会や外出を働きかけたり、年に一回家族会を企画しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新潟市郊外の自然豊かな地域にあり、開設して20年目を迎えている。前の理事長が、地域に貢献をしたいという想いから、この場所にグループホームとデイサービスの事業所を開設した。集落とは少し離れてはいるが、散歩の際に地域の方と挨拶を交わしたり、地域の祭りなどの行事への参加や地元保育園の園児との双方向の交流、ボランティアの受け入れ、事業所の納涼祭に地域の方にも参加してもらうなど、地域と密着したサービス運営を展開している。

2020年7月の理事長の交代に伴い法人名の変更し、管理者も10月から変わったが「みんなとつながる」という運営理念に基づいたチームケアを目指して日々取り組んでいる。職員間のコミュニケーションは密であり、毎月の職員会議の他に毎朝の申し送りでも意見交換が行われている。管理者は職員の意見を出来るだけ取り入れるなど職員の意見を大事にしている。

また、家族とのつながりもよく、担当職員を中心に家族との連絡を密にしており、家族・職員の顔の見える関係作りができています。コロナ禍以前は面会が多く、家族の受診支援で家族は概ね利用者の状態を把握していた。現在はオンラインでの面会であるが、家族の意見には迅速に対応してサービスの向上に努めている。今後は、さらに家族が意見や要望を出しやすいように意向調査を予定している。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の称号が新たにあり、理念も変更し、改めて事業所の理念を認識し、施設内の目につく場所に掲示していつでも確認しています。	法人の名称と体制が変わり新たな理念が作られた。それをもとに職員全員が意見を出し合って新たな事業所の理念を作った。理念は毎月の職員会議や年度ごとに振り返りを行うとともに、目につく所に掲示して共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の美容室を利用したり、定期的に近隣の理髪店に施設に来て頂いています。また地域の学校や保育園とも交流を図っていますが、コロナの影響で現在はできていないことが多いです。	コロナ禍以前は地区の行事への参加や地元保育園との交流、ボランティアの受け入れ、近くの方からの野菜の差し入れなど地域との付き合いがされていた。現在は、自治会に広報誌を届けたり、ホームページ上で事業所の取り組みを発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を活用し、出席者(自治会長さんや地域包括職員、他施設職員等)の皆様と認知症に関して、地域の問題点や施設のケアに関して情報交換行っていました。が、コロナの影響で中止しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長さんや民生委員さん地域包括職員、他施設職員、病院関係者の皆様にご出席頂き、運営状況を報告すると共に、ご出席者それぞれの立場からのご意見を施設運営に活かしています。ご家族にも毎回参加を呼び掛けています。	コロナ禍以前は、2か月おきに事業所で開催していたが、現在は、書面開催で事業所の運営について報告している。洗濯物を入れる袋をエコバックに変更して欲しい、通勤時間帯に道が狭いところなるべく通らないで欲しいと参加者からの意見を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター職員には運営推進会議に毎回出席頂き、センター主催の会議等に出席することで行政との関係を築いています。行政主催の研修にも積極的に参加しています。	地域包括支援センター職員とは運営推進会議への参加や研修会への参加で関係性を築いている。市とはメールでのやりとりで情報交換を行ったり、生活保護受給の利用者の支援で担当者が事業所にきて相談をするなど連携がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員各自が拘束しないことを意識してケアを実践しています。外部研修や内部研修も行って意識付けています。施錠は夜間の最低限とし、その他やむを得ず必要最小限の拘束が必要な場合はご家族に説明、同意頂いております。	「身体拘束適正化委員会」を毎月開催し、マニュアルの見直しなどを行っている。夜間の転倒防止のためにセンサーを使用している方が数人いるが、カンファレンスで使用時間やセンサーに頼らないケアについて話し合っている。外に出かけたい利用者には職員と一緒にいっくなど身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師を招いての施設内研修を行ったり、管理者は行政主催の研修会に参加しています。それらの内容を職員会議等の場で職員各自が再認識しています。コロナの影響で研修は参加できていません。	マニュアルが整備されており、内部研修で虐待の防止について確認している。不適切なケアを見かけた場合は、利用者を他の場所に案内し、管理者などが職員に指導や助言をしている。また、今後は外部講師を招いてアンガーマネジメントやリフレッシュの方法を学び、職員のストレス対策を行う予定である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員各自がその重要性を理解し、基本的知識を身につけるよう努めています。ご利用者、ご家族には必要に応じ対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者、ご家族の不安、疑問点には親身になって話を聞き、ご理解、ご納得頂けるまで丁寧な説明を行っています。ご利用者、ご家族からご質問あれば、いつでも対応します。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者一人一人に担当職員を就け、ご家族との連絡を密にしています。またご家族の面会時に希望、要望をお伺いして、そのご意見を施設運営に反映させるよう努めています。	利用者・家族と職員でなじみの関係ができるよう、担当職員を決めて意見を出しやすいようにしている。家族からは面会ができないので電話で話をしたり、本人の携帯電話の充電や使い方を教えて欲しいなどの要望があり、運営に活かしている。	意見箱の設置や、担当職員との相性が悪いときは別の職員に変更するなど工夫しており、今後は、家族あてに事業所独自のアンケートを考えている。事業所に直接意見を出しにくい方への配慮をしながら、様々な意見が出されるよう更なる取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議の中で意見、提案を検討する他、日々の業務の中でも様々な意見を吸い上げるようにしています。管理者は意見が言い易い、風通しのよい職場づくりに努めています。その他主任、副主任が補佐します。	職員会議のほか、日常的にも職員の意見や提案が出されている。利用者の支援の方法、業務内容の見直しなど気づいたことを何でも言える関係ができており、管理者も可能な限り、意見を運営に反映させている。また、個別面談でも職員から意見を出してもらえるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	副施設長は定期的な個別面談を通して職員各自の状況、要望等を把握し、より良い職場環境、条件の改善を行っていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を活用して各職員の力量を把握しています。また法人として外部、内部研修を定期的実施して各自の技術向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他施設の運営推進会議や包括ケア会議等各種会議に出席することにより情報交換を行っています。また他職員が会議、研修に参加する機会も設けていますがコロナの影響で実施できていません。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談行って情報収集を行い、ご本人に安心頂けるサービス提供を行います。また、ご家族にも協力頂きご本人の情報を得て対応致します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係を築くことを重要視し、話し合いの機会を設け、不安、要望に対し、安心頂ける様十分に説明して、ご納得頂けるよう努めます。ご質問等には、いつでも対応致します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を第一に考え、尊重します。ご本人の残存機能を保ちいつまでもその人らしく生活できるよう、必要な支援を見極めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人一人の出来ることを見極め、日々の生活の中に役割を持って頂き、助け合いながら生活していることを実感出来る様支援しています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態や生活の様子を面会時や広報紙によって報告、ご理解して頂き、面会の機会を増やすよう働きかけています。また、受診の付添いや必要な物品の購入等ご依頼しています。	受診支援や衣類などの必要物品の購入は家族の役割としてお願いしている。3ヶ月おきに広報誌を送る際に、担当職員が利用者の様子を手紙にして同封している。また、各居室に利用者の写真収めたアルバムを用意して面会時に家族に見てもらっている。コロナ禍で面会はできないが、オンライン面会や電話で本人と話をするなど関係継続を支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族に馴染みの方の面会や、外出をお願いしています。お墓参りや郵便のやり取りも協力しています。	行きつけの美容室や地元の祭りに出かけたり、知人が面会に来たり、隣のデイサービスの利用者との交流がなされている。また、利用者の思い出の場所に職員と出かけたりするなど馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者の間に入って楽しく生活出来る様橋渡ししたり、職員会議やカンファレンスを通してご利用者同士の関係を把握して支援を行っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際に心配事や相談事にはいつでも応じると伝え、契約終了後も連絡があれば対応、契約終了と同時に関係も終了とならないよう心掛けています。また、サービス事業所、施設と連絡を取り、現状の把握にも努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人に担当職員が就き、その方の希望、要望を詳しく把握するようにして支援を行っております。その情報は職員会議、カンファレンス等で職員間で共有しています。	主に担当職員が普段の会話でのやり取りや、本人の居室で改めて聞くなどして思いや意向を確認している。本人が意向を表出できない場合は、家族から意見を聞いて本人の思いを把握している。他の職員からの情報で意向が変わった場合はその都度、記録を追記して思いの把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族に聞き取りしたり、アセスメントを通してご本人の状況を確認して職員間で情報を共有して把握に努めています。ご利用者の生活歴等はその都度ご家族と情報交換行っています。	複数の職員で自宅を訪問したり、家族に聞き取りを行ってこれまでの暮らしの把握に努めている。字が上手な方に献立を書いてもらったり、夜の生活が中心だった方には朝食は休んでお昼前にランチを提供するなど、これまでの暮らしを事業所でも継続できるよう支援がされている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の訴えに対し、小さな事でも傾聴し、不安を取り除き、安心して頂ける様取り組んでいます。職員各自がご利用者の心身の状態を把握するよう情報共有しています。他、残存機能保持のため出来る範囲での活動を促しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の思いも反映させながら、個別カンファレンスの随時開催や、3か月に1度のモニタリングを通して現状に即したプランを設定しています。問題が発生した場合は職員間で話し合いを行い、素早い対策を立てるようにしています。	本人・家族の意向をもとに、計画作成担当者が原案を作成し、担当職員などの意見も加えて介護計画を作成している。本人や家族には計画を確認してもらい、支援内容についても日々の実践状況をチェックしている。内容に変更が必要な場合はその都度、職員間で話し合いが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りや記録を通して職員はご利用者の情報を常時共有してプランに反映させたり、問題点の見直しを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者一人一人を支えていく場として、必要なニーズに応じた臨機応変で柔軟な支援・サービスを提供出来る様努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の保育園児の慰問をご利用者は楽しみにしています。他にも隣接のデイサービスのボランティアの催しに参加したり、近隣の緑地公園の散歩、美容室の利用の機会を設け気分転換を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地区にある医療機関を定期的に受診することでかかりつけ医と連携を取りながら健康管理に努め、状態の急変にも対応しています。ご本人の希望に沿うよう家族と通院に行けるよう協力も要請しています。	これまでのかかりつけ医を継続する方や、事業所の近くの医療機関に変更する方など家族の意向を尊重している。受診付き添いは原則家族にお願いしており、受診時に本人の様子を口頭で伝えるが、必要に応じて手紙を書いて家族に渡したり、職員が同行するなど適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は毎日バイタル測定を行い、記録し、変化は申し送ります。その上で看護師とは24時間連絡が取れる体制を構築しており、小さな変化でも相談、連絡して指示をもらえるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設が病院・主治医に連絡を取り、定期的に現状確認を行ったり、面会、相談や情報交換を密にしています。必要に応じて、医療機関の関連職種とのカンファレンスの機会等連携も取ります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ステージごとにご家族やかかりつけ医と相談したり意向を確認したりしています。その際に施設でできる事、できない事を伝え、ご本人、ご家族にとって一番いい方法を検討しています。	入居時に、重度化した際の事業所の方針について説明を行った了承をもらっており、重度化で介護度が重くなった場合は、施設の申し込みをお願いしている。また、終末期に向けた支援では、現段階では看取りは行わないが、利用者や家族の状況に応じて家族の協力や医師との連携により看取りを行った事例もある。利用者の状態に合わせて早めに家族と今後について相談している。	終末期を迎える本人がどこでどのような支援を望むのかを、家族を含めて関係者で話し合う機会が望まれる。また、事業所では今後の看取り対応を検討しているが、以前の事例では職員から不安の声もあったので、具体的な方針やケア内容の共有、主治医との連携などチームで支援できる体制づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED等救命救急講習を行ったり、看護師より応急方法の伝達やその都度必要な処置方法を指導してもらっています。	コロナ禍で2020年度は実施できなかったが、心肺蘇生法の研修は消防署に出向いて行っている。また、急変や事故発生時は、隣のデイサービス事業所の看護師も含めた応援体制ができています。事象ごとのマニュアルも整備されており、急変などに備えている。	特に夜間など急変で応援職員がくるまでの、応急手当や初期対応について、実技を交えた訓練を計画し事故が発生したときの実践力を身に付けることが望まれる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設全体で避難訓練を行い消防署より指導頂いております。食料等緊急時の備品も管理しております。訓練内容等は運営推進会議にて報告、地域の協力を依頼しており、他施設との情報交換も行っております。	火災や地震を想定した避難訓練を消防署の立ち合いの下で年2回実施している。夜間想定の実践では法人全体で連携体制がとられている。食料品やおむつ類、暖房器具などの備蓄を備えている。	運営推進会議のメンバーが避難誘導に当たることになっている。メンバーに訓練の参加を依頼し、実際に利用者が避難所に避難を試みるなど実際の行動から見えた課題などについて話し合うことで実際に災害が行ったときの備えができるのではないだろうか。そうした取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議等で人格やプライバシーの重要性を確認し、職員全員が配慮した声かけを実行しています。入室の際には必ずノック、声掛けを行います。	居室に入るときは夜間も含めてノックをしてから入る。タンスの開け閉めや洗濯物を取り込む際も利用者に声をかけてから行うなど、利用者に対して失礼のないような声掛けや対応をするように努めている。個人情報や漏れないよう、申し送りは利用者の耳に入らないように、記録物は利用者の目に触れないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が何か行動を起こす時は、その方の意思を確認し、尊重しています。例えば衣類を選択する際にも自己決定ができるように環境を整えて支援しています。情報は職員間で共有しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人のペースやこだわりに合わせてサービスの提供を最優先に考え、個々の生活状況を把握しご自分らしくいられる空間を提供します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者一人一人のこだわりや思いを大切に、季節等に合わせた支援を心掛けています。必要な物を揃えるためにご家族に協力もお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者一人一人の状態を把握し、調理、片付け等個々のできる部分について、職員と一緒に参加して頂き実施しています。一日のメニューをリビングに掲示してご利用者に見て頂いております。また、季節に合わせた行事食も取り入れています。	メニューは法人の管理栄養士が作成しており、行事やイベントでは利用者の希望を聞いている。野菜を切ったり、食器を洗ったり、畑で育てた野菜を収穫するなど利用者ができることはお願いしている。食事は職員も利用者と同じものを一緒に食べ、出来映えなど話題にしながら楽しく食事をしている。また、お花見弁当や好きな利用者同士での外食など食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は管理表に記入してチェックして、ご利用者の個々の状態、状況に合わせて、声かけ等の対応をし、栄養、水分量の確保に努めています。ご利用者の状態に応じて、刻み、とろみ等の対応行います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯のご利用者には職員が声かけで、時には一緒に対応しています。自立の方は、声かけの実施で清潔を保持しています。また、口腔体操も定期的実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の記入やセンター方式を記入することで、ご利用者の個々の状態を検討して、自立への検討を実施しています。ご利用者の状態によっては、定時のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促しています。	本人のしぐさや排泄パターンを把握してトイレに誘導しており、利用者は全員トイレで排泄を行っている。紙パンツから布パンツに改善した方や失禁がなくなった方もあり、排泄の自立支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康記録をチェックして排便の傾向等分析して便秘予防のカンファレンスを行っています。なるべく薬に頼らず、食事内容や水分量、体操等での改善を心掛けています。便秘のひどい方に関しては看護師、主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の状態、好みに合わせた入浴の支援を、時間的には柔軟的に行っています。入浴剤等も使用し、ご利用者に入浴を楽しんで頂けるよう心掛けています。ご利用者の拒否があった場合は申し送りを行い、次回速やかに入浴出来る様対応致します。	利用者の希望に合わせて週2回から3回の頻度で、入浴時間も午前、午後とも行われている。入浴を拒否する方には無理強いせず、時間や日を変えて声掛けを行っている。重度の方には、職員2人に対応しシャワー浴にしている。季節に応じて、ゆず湯やバラの花を浮かべるなど入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間巡回行い、表情の変化を確認したり、不穏な方には声かけしたり、訴えを傾聴して、ご利用者の状態に合わせた支援を行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬、配薬等の業務にはチェックリスト用い、職員全員が細心の注意を払い業務を行っています。受診時に服薬変更があった際には情報を共有しています。服薬後の小さな変化も見逃さぬよう対応して記録にも残し、状況に応じてかかりつけ医、薬剤師に報告行い、指示を仰ぎます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除、裁縫等その人ができることを活かし、日々の生活に張り合いをもって生活を送れるよう支援行っています。そのため、ご利用者一人一人の出来ることや好みを職員間で情報共有行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に合わせた外出行事を実施している他、天気の良い日には職員との散歩も行っています。家族との外出も墓参りや外食等を働きかけています。予定は広報紙等でご家族へ報告し、ご家族の参加も呼びかけています。コロナで予定通り実施できていません。	コロナ禍以前は、花見や海、温泉など近隣の観光地へのドライブに全員で出かけたり、買い物や友達同士少人数での外食にも出かけていた。現在は外出の機会は自粛しているが、今後は家族の協力も得ながら利用者が楽しみとしている外出ができるよう計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員同行で買い物に出掛ける機会を設け、好みのものを購入する際に支払いができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が希望される時に、電話できるよう支援しています。郵便に関しても、必要な物品の購入、投函等支援致します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングスペースを中心に、定期的に壁面の飾りを変えたり、置物や生花を使用して季節感の演出を心掛けています。貼り絵等ご利用者にもご協力頂き、作品を掲示しています。居室、トイレ、浴室等はご利用者に判り易い様、工夫した掲示を行っています。	共用空間には利用者が作った塗り絵や貼り絵、日めくりカレンダーを掲示したり、花を飾って季節感を感じてもらっている。リビングのソファは少し色を変えたものを用意しており、利用者同士の相性にも配慮して席を決めている。日中はほとんどの方がリビングで居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの自席で気のあったご利用者同士が過ごせるよう配置を考慮したり、ソファや畳スペースでテレビを観たり、新聞を読んだり自由に過ごせるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みがあり使い慣れた家具や物を持ち込んで使用して頂き、自宅で生活していた時間の継続となるように工夫しています。畳敷き等ご利用者やご家族の希望にも対応しています。	居室には自宅で使っていた籐の椅子やテーブル、テレビやラジオなどなじみの物が持ち込まれている。また、家族の写真やミシンなど本人が大切にしていた物を持ち込み、設えについては家族、職員と一緒に考えている。家族が面会に来た時は居室でゆっくり過ごしており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札設置し、トイレ・浴室等も表示行い、ご利用者が混乱なく施設利用できるよう工夫しています。又、身体状況に応じた福祉用具を導入して、残存能力を活かし自立した生活が送れるよう支援しています。何か危険な状態あれば早急にカンファレンス行い、リスク回避の改善図ります。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				